

## 2023年度 理事長所信

公益社団法人 飯能青年会議所  
第50代理事長候補者 浅見友章

### 【はじめに】

行動力の源とは、一体何なのでしょう。きっかけの理由は、自身の興味関心や憧れる存在からの影響など、様々あることでしょう。しかし、そこには心を突き動かされる衝撃があったはず。私は、誰かの心に衝撃を与えることのできる存在になりたいです。そして、飯能青年会議所に関わる方たちもそうであって欲しいと願っています。

1973年に誕生した飯能青年会議所は、2023年度で50周年を迎えます。飯能青年会議所は、いつの時代でも「明るい豊かな住みよい社会」を築くことを目標として、その時代の地域課題の解決に向け果敢に挑戦し続けてきました。その挑戦が、自己の成長に繋がり、その成長した青年が関わるこの地域、そして企業のより良い発展に繋がってきました。私たちは、次代を担う青年としてどうすればより良い明日を迎えられるのかを真剣に考えて行動をしなければなりません。この学び舎での成長の機会を活かし、より良い変化のために積極的に挑戦し続けていきたいと思います。

### 【会員資質向上と会員拡大】

青年会議所とは、どのような団体なのか説明できますか。私たちが行っていることは単なる自己満足なのでしょうか。そんなことはありません。青年会議所運動で得られる経験は、青年会議所だけでなく自身の企業や家庭で活かせることが多くあり、必ず誰かの為になります。そして、それは自分自身の為でもあるのです。青年会議所の魅力や価値を正しく認識し発信していく為にも会員の研修は欠かせません。青年会議所運動の本質を学び、実行し、成果を生み出すことで会員の自信が育まれます。その自信が、その後の運動の成果に繋がり、結果として飯能青年会議所は地域に好循環を与えられる組織となれるのです。

また会員数は、組織が地域に与える影響力に関係する一つの要因です。会員拡大で重要なことは二つあります。一つは、新入会員を増やすことです。新入会員の入会後のフォローアップを全メンバーが意識的に行えるような仕組みを作りましょう。そして、もう一つは、退会者を減らすことです。会員同士が人間関係を良好にすることは基より、飯能青年会議所に所属している意義と目的を明確にさせていただく為にも自身の成長を組織内で共有できる仕組みを作りあげましょう。

### 【誰もが活躍できる「まちづくり」】

生産性の向上を目指しデジタル化が進む中で、人の存在意義が問われています。私たちは、一人ひとりに個性があり、それを形作るのは価値観です。同じ経験や境遇で育ったとしても価値観が異なるからこそ個性が異なります。一人ひとりの価値観を尊重し、それを取り入れることで更なる地域や企業の発展に繋がります。多様性が求められている時代だから

こそ、全ての人が活躍できる社会の仕組みが必要です。

一人ひとりが自身の価値観を見つめ直しどのように生きていくのが自分にとっての幸せで、それを社会でどう活かしていくのかを突き詰めていただきたいです。そこで見つけ出した価値観は、自身を新たな挑戦へと導いてくれることでしょう。そして、より多くの人たちが新たな挑戦を目指すことで生まれる波は、互いを尊重する基礎となり、自身にとどまらず社会的な問題解決へと繋がる流れとなります。その流れが、より大きくなることで誰もが活躍できる地域となれるのです。

#### 【地域の魅力を共有する「はんなーら」】

近年、飯能市と日高市は、総人口は減少しているものの社会的要因で転入する人口は増加をしています。それは、様々な要因が関係していますが、一つは地域外の人たちにとってこの地域は住みたい場所であるということです。即ち、この地域は魅力的な場所なのです。しかし、地元の人たちは、その魅力に対して日常生活を送る中で当たりまえに存在しているが為に魅力が薄れて無いものと錯覚してしまいます。今後の地域のより良い発展には、住民が地域の魅力の再認識をするとともに、地域に対する愛着や誇りを醸成することが必要です。

1974年6月発行のミニニュース飯能の創刊から受け継がれている広報誌「はんなーら」は、地域と飯能青年会議所を繋ぐ架け橋として重要な事業です。そして、2022年度まで発行された第183号までに掲載された情報量は、飯能青年会議所にとって貴重な財産です。この蓄積された情報量を活かさない手はありません。広報誌「はんなーら」を発行するだけに留まらず、活用し、読者がこの地域に興味関心を抱き行動を起こしていただける事業としていきましょう。

#### 【攻めの「総務」】

在籍年数が長い会員の卒業や平均在籍年数が短期化している現状では、過去の運動の効率的な引き継ぎや生産性の向上をする為の仕組みづくりが必要です。また、多様性と包摂が叫ばれている昨今、飯能青年会議所でも多様な人材が活躍できる組織となることが求められています。

非対面でのやり取りが主流となりつつある今、改めて対面や非対面のそれぞれの良さを再確認する必要があります。対面では、人間としての五感を通しての心の触れ合いが感じられます。非対面では、場所や時間の制限が無く効率的な組織運営が望めます。どちらか一方に偏るのではなく使い分けをしていき、どのような環境下でも青年会議所運動に携わることが出来る制度設計をしましょう。さらには、飯能青年会議所で抱えている課題を解決するために各種業務の能動的な改善を提案し、会員の活動を円滑に行えるような組織運営を目指しましょう。

#### 【50周年から未来へ】

人生100年時代と言われていますが、50周年を迎える飯能青年会議所は、人生に置き換えると中間地点となります。しかしながら人生と異なる点は、在籍している会員はいつの時代も20歳から40歳までの精力旺盛で物事に全力で取り組める状態であるということです。これまで時代に即した組織運営をしてきた先輩諸兄姉に感謝を伝えるとともに、今後も伝統を受け継いで参ります。そして、飯能青年会議所の運動を通して「明るい豊かな住みよい社会」を目指し挑戦していきます。

今後、人口減少だけでなく労働生産人口の割合も減少が確実となる中で、行政や企業、団体などの真価が問われてきます。互いの組織を尊重しながらも地域全体でより良い未来に向け協力できるような事業を作り上げましょう。

#### 【終わりに】

私は、飯能青年会議所の創立40周年の年に入会しました。入会当時、先輩が地域のことを真剣に考えて議論し、行動していることに驚きを覚え心が揺れ動いた瞬間がありました。まさに、飯能青年会議所の運動を通して私の意識が変化したのです。更には、運動を通じて青年会議所の多くの同志との出会いもありました。青年会議所内での多くの成長の機会は、自ら掴み取ることが可能です。たとえ機会があったとしてもやるかやらないかは自分次第です。また、果敢に挑戦しても成功するかは誰にも分かりません。しかし、あなたが真剣に向き合い夢中になっていれば、想いが伝播し社会的な運動を起こせるはずです。一つひとつのことに真剣に向き合い当事者意識を持って行動していきましょう。誰かの為に一生懸命になれる姿勢が憧れとなっていき、あなたの意志を継ぐ人間が必ずや現れます。私は、青年会議所とは事業を通して無関心から関心に意識を変革していく運動をするとともに、運動を通して地域をけん引するリーダーの育成をする場であると考えています。そのリーダー像とは、地域から頼られ、誇られ、尊敬される人材であると考えます。そんな人材が多くいる地域の未来は明るい信じています。未来を照らす光は、一人では淡くてぼやけてしまうかもしれません。しかし、皆で照らし合うことで輝きとなり迷わず進むべき方向に舵を取ることができます。その一筋の光に向かう為に皆で学び、対話し、行動を起こしましょう。

あなたの情熱と行動力が、誰かに驚きと感動を与え地域を動かしていきます。共に輝かしい未来に向けて一歩を踏み出しましょう。誰の為でもない、あなた自身の願いの為に。